

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和7年度4～5月号

○ 4月の概要

- (1) 令和7年度4月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,196億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,611円（伸び率+3.3%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が2,002億円（伸び率+4.7%）、薬剤料が5,180億円（伸び率+3.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,000億円（伸び率+4.3%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,329円（伸び率+1.7%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.84種類（伸び率+1.0%）、28.3日（伸び率+1.2%）、66円（伸び率▲0.5%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料3,990億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+89億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の771億円（伸び幅+29億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+47億円（総額562億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,990 億円 (+89 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(771 億円)	21 循環器官用薬 (576 億円)	42 腫瘍用薬 (562 億円)
0 歳以上 5 歳未満	19.1 億円 (▲1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (5.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.0 億円)	61 抗生物質製剤 (2.9 億円)
5 歳以上 15 歳未満	99.7 億円 (+4.2 億円)	44 アレルギー用薬 (34.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (28.3 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,506 億円 (+55 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(291 億円)	11 中枢神経系用薬 (278 億円)	42 腫瘍用薬 (184 億円)
65 歳以上 75 歳未満	800 億円 (▲20 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(185 億円)	42 腫瘍用薬 (148 億円)	21 循環器官用薬 (128 億円)
75 歳以上	1,565 億円 (+52 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(287 億円)	21 循環器官用薬 (273 億円)	42 腫瘍用薬 (227 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,611円（伸び率+3.3%）で、最も高かったのは北海道（11,444円（伸び率+4.6%））、最も低かったのは佐賀県（8,354円（伸び率+2.6%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+8.5%）、最も低かったのは徳島県（伸び率▲1.1%）であった。（→P.31～32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.2 %	+5.5 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	77.8 %	+10.7%
後発品調剤率	81.3 %	+1.5 %

注 1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕) で算出。

注 2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料〕) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.3 %	+29.6 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲3.4 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	77.8 %	86.9 % (100 歳以上)	67.4% (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.2 %	93.8 % (100 歳以上)	89.9 % (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	848 億円 (+34 億円)	21 循環器官用薬 (258 億円)	11 中枢神経系用薬 (148 億円)	23 消化器官用薬 (94 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.4 億円 (+0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (4.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	62 化学療法剤 (0.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	19.8 億円 (+2.0 億円)	44 アレルギー用薬 (12.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)
15 歳以上 65 歳未満	297 億円 (+10 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	11 中枢神経系用薬 (69 億円)	44 アレルギー用薬 (39 億円)
65 歳以上 75 歳未満	168 億円 (▲0 億円)	21 循環器官用薬 (63 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	23 消化器官用薬 (19 億円)
75 歳以上	355 億円 (+21 億円)	21 循環器官用薬 (123 億円)	11 中枢神経系用薬 (56 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.50~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,336 円	1,715 円(北海道)	1,125 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.8%	+6.2 % (奈良県)	▲0.4 % (鹿児島県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.2 %	94.6 % (沖縄県)	88.6 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	77.8 %	83.2 % (鹿児島県)	73.4 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	81.3 %	84.3 % (熊本県)	78.1 % (東京都)

○ 5月の概要

- (1) 令和7年度5月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,923億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+2.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,466円（伸び率+3.8%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,940億円（伸び率+3.6%）、薬剤料が4,969億円（伸び率+2.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が933億円（伸び率+2.1%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,207円（伸び率+1.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.82種類（伸び率+0.6%）、27.5日（伸び率+2.1%）、67円（伸び率▲0.9%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料3,808億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+33億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の745億円（伸び幅+22億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+32億円（総額545億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,808 億円 (+33 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(745 億円)	21 循環器官用薬 (550 億円)	42 腫瘍用薬 (545 億円)
0 歳以上 5 歳未満	18.4 億円 (▲2.3 億円)	44 アレルギー用薬 (5.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.9 億円)	61 抗生物質製剤 (3.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	96.3 億円 (+3.8 億円)	44 アレルギー用薬 (30.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (28.1 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,445 億円 (+43 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(284 億円)	11 中枢神経系用薬 (272 億円)	42 腫瘍用薬 (178 億円)
65 歳以上 75 歳未満	759 億円 (▲31 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(177 億円)	42 腫瘍用薬 (143 億円)	21 循環器官用薬 (122 億円)
75 歳以上	1,489 億円 (+20 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(276 億円)	21 循環器官用薬 (261 億円)	42 腫瘍用薬 (220 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,466円（伸び率+3.8%）で、最も高かったのは北海道（11,147円（伸び率+4.6%））、最も低かったのは佐賀県（8,298円（伸び率+5.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+7.7%）、最も低かったのは秋田県（伸び率+1.0%）であった。（→P.31～32）

《後発医薬品の使用状況について》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.2 %	+5.4 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	77.7%	+10.5 %
後発品調剤率	80.6 %	+0.9 %

注 1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕) で算出。

注 2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料〕) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.1 %	+20.3 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲5.1 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	77.7 %	86.8% (100 歳以上)	66.8% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.2 %	93.6 % (100 歳以上)	90.2 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	800 億円 (+24 億円)	21 循環器官用薬 (245 億円)	11 中枢神経系用薬 (143 億円)	23 消化器官用薬 (90 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.9 億円 (+0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (4.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	62 化学療法剤 (0.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	17.5 億円 (+1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (10.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)
15 歳以上 65 歳未満	280 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (67 億円)	44 アレルギー用薬 (30 億円)
65 歳以上 75 歳未満	157 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (59 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (18 億円)
75 歳以上	337 億円 (+15 億円)	21 循環器官用薬 (117 億円)	11 中枢神経系用薬 (53 億円)	23 消化器官用薬 (46 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,275 円	1,660 円(北海道)	1,085 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.9%	+4.9 %(奈良県)	▲0.9 %(岩手県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.2 %	94.5 %(沖縄県)	88.7 %(東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	77.7%	83.5 %(鹿児島県)	73.3 %(徳島県)
後発医薬品調剤率	80.6 %	84.0 %(秋田県)	77.4 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度4月及び5月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。